

政策委員会の活動状況

平成 17 年 2 月 23 日

前回の本部会議（平成 16 年 8 月 30 日）以降の政策委員会及び各部会等の活動状況は、以下の通りである。

1. 政策委員会の開催について

平成 16 年 2 月 16 日第 26 回政策委員会を開催した。議事の概要は以下の通り。

事務局から平成 17 年度地震調査研究関係政府予算案及び平成 16 年度地震調査研究関係補正予算について報告を受けた。

調査観測計画部会の活動状況について、本蔵部会長代理から、（１）調査観測計画の策定、（２）基盤的調査観測の現状確認、（３）調査観測データの流通・公開、について報告を受けた。（１）に関連し、重点的な調査観測計画に併せ盛り込まれる活断層の追加と評価の信頼度を高めるための補完的調査の対象選定の基本的考え方について了承した。（２、「調査観測計画部会の活動について」参照）

また、成果を社会に活かす部会の活動状況について、廣井部会長から報告を受けた。（３、「成果を社会に活かす部会の活動について」参照）

2. 調査観測計画部会の活動について

（１）調査観測計画の策定について

調査観測計画部会（部会長：長谷川昭・東北大学大学院理学研究科教授）では、重点的な調査観測の計画について審議を継続している。その中で、基盤的調査観測の対象となる活断層の追加、及び長期評価の対象となった活断層の一部について評価の信頼度を高めるための補完的調査の対象の選定を併せ行うこととし以下の基本方針を決定した。

基盤的調査観測対象の選定基準を満たすことで、対象に追加する活断層については、平成 16 年度末を目途に確定する。また、評価の信頼度を高めるための補完的調査の対象となる活断層の最終的な確定については、活断層の評価が一通り出そろった後の平成 17 年度の早い時期に行うこととする。

平成 17 年度の調査対象としては、基盤的調査観測の対象に追加したものの

うち長期評価に必要な調査が実施されていないものを優先する。ただし、その中で調査の準備に時間を要するものがある場合は、信頼度を高めるための補完的調査を行うこととされた活断層のうち、確率の幅が大きくかつ確率の最大値が大きいものを代わって実施する。

信頼度を高める補完的調査が必要な活断層の調査を行う優先順位の詳細については、更に検討する

(2) 基盤的調査観測の現状確認について

基盤的調査観測の現状について確認を行い、観測網の中には老朽化のために観測の継続が難しくなりつつある地点が存在するとの指摘があったことを踏まえ、観測網の現状を把握し、今後の観測体制のあり方についての課題を検討するため、ワーキンググループを設置することとした。

(3) 調査観測データの流通・公開について

調査観測計画部会の下の調査観測データ流通・公開推進専門委員会（主査：本蔵義守・東京工業大学副学長）において、調査観測データの流通・公開の状況について観測項目毎に聴取を行い、データの流通・公開が着実に推進されていることを確認した。さらに、重点的な調査観測で得られるデータの流通・公開についても、その重要性を確認し、具体的な枠組みについて検討を開始した。

3. 成果を社会に活かす部会の活動について

成果を社会に活かす部会（部会長：廣井脩・東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）では、地震動予測地図の作成趣旨、内容の理解及び利用の促進を目指した報告書の作成に向けて検討を進めている。報告書には、利用する側の意見等も生かすことが重要と考え、「地震動予測地図利用検討ワーキンググループ」にライフライン関係者にも出席頂き、幅広く意見を伺った。この意見を踏まえ、3月に開催する部会で、報告書のとりまとめについて審議する予定である。

4. 総合的かつ基本的な施策の評価に関する小委員会について

総合的かつ基本的な施策の評価に関する小委員会については、主査を東京海上日動火災保険株式会社 樋口公啓 相談役をお願いすることで本人の内諾を得た。また、その他の委員については、現在、有識者、マスコミ関係者、自治体等から選考を進めている。